



2026年11月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年7月15日

上場会社名 ウリドキ株式会社 上場取引所 名
コード番号 418A URL <https://uridoki.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役（氏名） 木暮 康雄
問合せ先責任者（役職名） 取締役CF0経営管理本部長（氏名） 三輪 衛（TEL）050(3181)6247
半期報告書提出予定日 2026年7月15日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2026年11月期第2四半期（中間期）の業績（2025年12月1日～2026年5月31日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年11月期中間期	1,190	70.6	219	211.4	219	99.2	151	36.3
2025年11月期中間期	697	-	70	-	109	-	111	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年11月期中間期	35.29	31.69
2025年11月期中間期	26.94	-

（注）1. 当社は、2024年11月期中間期については中間財務諸表を作成していないため、2025年11月期中間期の対前年中間期増減率については記載しておりません。

2. 当社は、2025年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間純利益を算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年11月期中間期	1,046	651	62.2
2025年11月期	695	407	58.7

（参考）自己資本 2026年11月期中間期 651百万円 2025年11月期 407百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年11月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2026年11月期	-	0.00	-	-	-
2026年11月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年11月期の業績予想（2025年12月1日～2026年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,489	63.9	443	152.8	443	120.3	307	42.6	66.74

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 中間財務諸表及び主な注記 (4) 中間財務諸表に関する注記事項 (中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年11月期中間期	4,611,280株	2025年11月期	4,281,540株
2026年11月期中間期	0株	2025年11月期	0株
2026年11月期中間期	4,290,345株	2025年11月期中間期	4,121,540株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

(注) 当社は、2025年12月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報 (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで2026年7月15日に同日開示し、開示後速やかに当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの概況	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当中間会計期間（2025年12月1日～2026年5月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加等を背景に、緩やかな回復基調がみられました。一方で、物価上昇の継続、為替相場の変動、国際情勢の不安定化等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社の属するリユース業界については、フリマアプリやインターネットオークションなどの普及に伴い、消費者にとってリユース品を売買しやすい環境が広がっていることを背景に、市場規模はますます拡大しております。2024年において顕在化しているリユース市場規模は約3.3兆円となり、2030年には約4兆円規模に拡大すると予測されております（株式会社リユース経済新聞社「リユース市場データブック2025」）。また、長期化するインフレ・円安は日本のリユース市場を活性化させる大きな要因となり、特に当社の得意とする高単価商材の取引が拡大しています。

このような環境の中、当社はC2Bの買取プラットフォームサービス「ウリドキ」の更なる事業投資を行い、「世界を変えるC2Bプラットフォームをつくる」という当社のミッションのもと「客観的な価値の情報提供」や「眠っているリユース品（遊休資産）の掘り起こし」に取り組んでまいりました。

以上の結果、当中間会計期間の営業収益は1,190,065千円（前年同期比70.6%増）、営業利益は219,340千円（前年同期比211.4%増）、経常利益は219,078千円（前年同期比99.2%増）、中間純利益は151,405千円（前年同期比36.3%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当中間会計期間末における資産合計は1,046,650千円となり、前事業年度末に比べ351,459千円増加いたしました。これは主に、営業活動による収入及び新株予約権の行使により現金及び預金が241,096千円増加したことに加え、営業収益の増加に伴い売掛金が99,975千円増加したことによるものであります。

（負債）

当中間会計期間末における負債合計は395,102千円となり、前事業年度末に比べ107,726千円増加いたしました。これは主に、取引規模の拡大により未払金が74,219千円増加したこと及び未払法人税等が36,777千円増加したことによるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末における純資産合計は651,548千円となり、前事業年度末に比べ243,732千円増加いたしました。これは主に、新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ46,171千円増加したこと、並びに中間純利益の計上により利益剰余金が151,405千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの概況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は673,071千円となり、前事業年度末に比べ241,096千円増加いたしました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、154,273千円の収入(前中間会計期間は95,934千円の収入)となりました。これは主に、売上債権の増加額99,975千円及び法人税等の支払額28,782千円があった一方で、税引前中間純利益219,078千円を計上したこと、未払金の増加額74,969千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、1,671千円の支出(前中間会計期間は499千円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1,671千円を計上したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、88,494千円の収入(前中間会計期間は43,342千円の支出)となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行による収入91,836千円があった一方で、長期借入金の返済による支出3,342千円があったことによるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間会計期間において、営業収益及び各段階利益が想定を上回って推移いたしました。これを踏まえ、年度の着地を見積もった結果、営業収益は前回発表予想を10%以上、営業利益及び経常利益は30%以上、それぞれ上回る見込みとなったことから、2026年1月14日に発表した2026年11月期の通期業績予想を上方修正するものです。

下期につきましても、加盟店との取引拡大、積極的なマーケティング投資、取扱商材の展開を推進し、修正後の通期業績予想を上回る業績水準を目指してまいります。

なお、下記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2026年11月期通期業績予想数値の修正(2025年12月1日～2026年11月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,157	百万円 339	百万円 339	百万円 242	円 銭 52.56
今回修正予想(B)	2,489	443	443	307	66.74
増減額(B-A)	332	104	104	65	
増減率(%)	15.4	30.6	30.7	27.0	
(参考)前期実績 (2025年11月期)	1,519	175	201	215	52.17

(注) 前回発表予想(A)の1株当たり当期純利益は、比較可能性を確保するため、本資料発表日現在の発行済株式数の状況を考慮して再計算した数値を記載しております。なお、「(参考)前期実績2025年11月期」の1株当たり当期純利益は、2025年11月期に係る公表済みの数値を記載しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2025年11月30日)	当中間会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	431,974	673,071
売掛金	164,479	264,455
貯蔵品	26,038	26,305
前払費用	5,792	15,975
その他	99	99
貸倒引当金	△388	△624
流動資産合計	627,995	979,282
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	1,248	1,088
工具、器具及び備品(純額)	1,087	1,639
有形固定資産合計	2,336	2,727
投資その他の資産		
長期前払費用	438	219
繰延税金資産	64,421	64,421
投資その他の資産合計	64,859	64,640
固定資産合計	67,195	67,368
資産合計	695,191	1,046,650

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年11月30日)	当中間会計期間 (2026年5月31日)
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	7,137	7,137
未払金	135,127	209,347
未払費用	9,904	12,447
未払法人税等	33,108	69,886
未払消費税等	36,476	31,595
契約負債	20,657	21,673
預り金	19,990	18,692
賞与引当金	4,334	7,024
流動負債合計	266,736	377,804
固定負債		
長期借入金	20,324	16,982
資産除去債務	315	315
固定負債合計	20,639	17,297
負債合計	287,375	395,102
純資産の部		
株主資本		
資本金	105,160	151,331
資本剰余金	55,160	101,331
利益剰余金	247,467	398,873
株主資本合計	407,787	651,536
新株予約権	27	11
純資産合計	407,815	651,548
負債純資産合計	695,191	1,046,650

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
営業収益	697,395	1,190,065
営業費用	626,955	970,725
営業利益	70,440	219,340
営業外収益		
受取利息	73	435
助成金収入	41,364	—
その他	1	12
営業外収益合計	41,439	448
営業外費用		
支払利息	589	220
支払手数料	1,300	—
株式交付費	—	490
営業外費用合計	1,889	710
経常利益	109,991	219,078
税引前中間純利益	109,991	219,078
法人税等	△1,057	67,672
中間純利益	111,048	151,405

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年5月31日)	当中間会計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	109,991	219,078
減価償却費	291	530
貸倒引当金の増減額(△は減少)	172	236
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,709	2,690
受取利息	△73	△435
支払利息	589	220
支払手数料	1,300	—
株式交付費	—	490
助成金収入	△41,364	—
売上債権の増減額(△は増加)	△72,907	△99,975
貯蔵品の増減額(△は増加)	1,266	△267
前払費用の増減額(△は増加)	3,108	△10,182
長期前払費用の増減額(△は増加)	35	219
未払金の増減額(△は減少)	34,572	74,969
未払費用の増減額(△は減少)	△1,123	2,550
未払消費税等の増減額(△は減少)	7,672	△4,880
契約負債の増減額(△は減少)	2,109	1,015
預り金の増減額(△は減少)	7,502	△1,297
その他	468	△2,113
小計	55,318	182,847
利息の受取額	73	435
利息の支払額	△630	△227
助成金の受取額	41,364	—
法人税等の支払額	△191	△28,782
営業活動によるキャッシュ・フロー	95,934	154,273
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△499	△1,671
投資活動によるキャッシュ・フロー	△499	△1,671
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	91,836
長期借入金の返済による支出	△43,342	△3,342
財務活動によるキャッシュ・フロー	△43,342	88,494
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	52,092	241,096
現金及び現金同等物の期首残高	152,612	431,974
現金及び現金同等物の中間期末残高	204,705	673,071

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間会計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金が46,171千円及び資本準備金が46,171千円増加し、当中間会計期間末において資本金が151,331千円、資本剰余金が101,331千円となっております。

(中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

当社は、プラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。